



前 田 勝 幸 議員

防災に対する取り組み 備えはどうか

問

絶対、あってほしくないが、自然災害は止めようがない。強烈な直下型地震と予想される東海、東南海、南海地震も脅威である。

その他、台風や豪雨に対する備えも重要であるが、市の防災に対する取り組み、備えはどうか。

策定した地域防災計画 に沿って取り組む

答 市長

市は14年に東海地震の防災対策強化地域、さらに15年には東南海、南海地震防災対策地域の指定をされた。2月には、市防災会議を開催し、市の防災の基本となる地域防災計画を決定した。

災害時の非常食の 備蓄状況は

問

循環式防火水槽兼非常用飲料水確保の施設で、6カ所目が十四山地区に間もなく完成し、市全域に配置さ

その地域防災計画に定める台風等の風水害、地震災害を想定し、市民の生命および財産を災害から守ることに全力をあげたいと考える。また、整備を進める同報無線やCATVも防災上、大きな効力を発揮するものであると確信している。同時に、市民に対し、防災マップの確認や広報等を通じ、自己防衛意識の高揚を呼び掛けたいと考える。

れる。

災害時に一番大切な飲み水が、市民2日分確保されたが、この水を速やかに、行き渡るための手段はどのように考えているか。

また、阪神、淡路大震災時は、日数が経つてくると幕の内弁当でも不満だったと聞く。長期保存のできる非常食は、よく数を検討して備蓄すべきと考えるが、非常食の備蓄状況はどうか。

乾パン・ アルファ米等を備蓄

答 防災安全課長

飲料水を運搬するための水袋を約15000袋備蓄している。

非常食は乾パンが15000缶、アルファ米が23000食、サバイバルフーズが30000食、クラッカーが40000袋備蓄してある。

さらに、全国展開するスーパーと、非常時の食料等の提供に關する協定を締結しており、今後、市内のスーパーとの協定締結も準備している。



▶十四山支所敷地内に設置された災害用飲料水兼用貯水槽